

世界の人びとの“いのち”と“くらし”に貢献 —中国での水環境保全に向けて

旭化成株式会社 総務部 CSR 室
室長 若林 修

昨日まで世界になかったものを

旭化成は、グループスローガンでも謳^{うた}っている通り「昨日まで世界になかったものを」創造し、次の時代へと伝えていくために、さまざまな分野への事業展開を行っている。創業当初からの主要事業であった繊維事業を通じて開発された「中空糸」の技術を進化・応用させた「ろ過膜」の技術は、人工腎臓に代表される医療分野への展開と併せて、工業用水および上下水道など水処理事業の分野で展開を行っている。中国では、このろ過膜が上下水道の浄化に利用されており、飲料水・工業用水の確保とともに、排水浄化による環境対応という意味でも大きく活用されている。

このような背景から、今回は当社の「中国における水環境の保全」の取り組みを通じた社会貢献活動を紹介したい。

旭化成水環境基金

水環境の改善に向けて

中国は、従来から水資源が不足していることに加え、産業、特に工業の急激な発展による工業廃水が原因の水質汚染、生活排水の処理能力不足、農業生産性向上のための化学肥料や農薬の大量使用などにより、水質の悪化が急速に進んでいる。結果として安心して飲める水が大幅に不足するという極めて深刻な事態となっている。

このような状況のもと、中国の水環境改善のため、青少年向けの水環境の啓発活動と水環境関連



『水環境基金』設立

研究の支援を目的として、『中国光彩会事業基金会 旭化成水環境基金』（基金額：2000 万元（約 2.8 億円））を 2009 年 2 月に設立した。

同基金の活動は、2009 年 8 月、四川大地震の被災地である甘肅省文県において行われた、北京の大学生ボランティアによる教育支援（水環境教育を含む）から本格的にスタートした。

2010 年からは、「小記者、大提案」と呼ばれる活動を開始した。これは、小学生を対象に、その地域の主要河川に関連した水環境の啓発を行う活動で、河川流域の水環境保護施設の見学、河川より採取した水の水質測定、水環境保護の小論文を募集し現地政府へ提出することなどを行っている（初年度は遼寧省瀋陽市にて実施）。また、これら



大学生ボランティアによる教育支援

青少年向けの活動に加え、一般・研究者向けの「水環境シリーズ表彰活動」も開始した。水処理関連の研究を表彰する「水環境優秀論文表彰」と、水環境保護に特別な貢献をした人物を表彰する「水環境公益人物表彰」の2つの実施である。

さらに、同年8月に発生した甘肅省舟曲での土石流災害の被災者支援として、移動型浄水ユニット2台を現地に運び、河川水をろ過することで約3000人の住民へ安全・清潔な生活用水を提供した。



飲料用ろ過ユニットによる被災者支援

2011年は、甘肅省文県への大学生によるボランティア教育支援を継続し、小学生向け水環境啓発活動の拡大（福建省、広西自治区、遼寧省大連市）を行った。また、「水環境シリーズ表彰活動」の内容を一部見直し、水環境保護に貢献した民間人を対象とする「公益人物表彰」に加え、企業の生産活動の中で、節水や水汚染対策に積極的に取り組み、水環境保護に大きな貢献をした中国民营企业を対象とする「企業表彰」の2つの部門に分けて表彰を行った。

2012年も2011年からの各活動を継続し、2012年12月に行われた「水環境シリーズ表彰活動2012」においては、公益人物表彰として19名（団体）、企業表彰として42社を表彰した。



「水環境シリーズ表彰活動2012」表彰式

当社は、これらの活動が中国における水問題解決の一助になると期待しており、ひいては、日中両国のパートナーシップがより強固になることを切に願っている。

内モンゴルでの植林による水環境支援

「樹が待っている」プロジェクト

この他にも、旭化成は水環境改善につながる活動を行っている。それは、中国の有力経済メディアである第一財經とともに進めている『樹が待っている』という公益プロジェクトで、中国最大のwebサイト内にあるミニブログを活用し、環境意識の高い一般の方々から環境保護に関する写真を投稿してもらい、その数に応じて当社が樹木を植えるプロジェクトである。2011年6月に活動をスタートし、5カ月間の投稿数8300件に対応するかたちで、12年4月に内モンゴル自治区のホルチン砂漠に同数の植林を行った。

ホルチン砂漠はかつて緑豊かな草原だったが、過剰な放牧・伐採・耕作が繰り返されたことで砂漠化してしまった地域で、この植林を通じて砂漠化進行を阻止しようという試みである。13年4月には、第2回目として5130本の植林が予定されている。



内モンゴルでの植林

旭化成のグループ理念は「世界の人びとの“いのち”と“くらし”に貢献」することである。これからもこの理念のもと、さまざまな事業や活動を通じて、世界の各地域でグローバルCSRを推進し、持続可能な社会づくりに貢献したいと考えている。

◆旭化成グループのCSR活動
<http://www.asahi-kasei.co.jp/asahi/jp/csr/>